

平成21年度 第1回徳島県田園環境検討委員会

I 日 時

委員会 平成21年11月6日(金) 14時から15時50分

II 場 所

徳島県庁10階特別大会議室

III 出席者

【委員】角野委員長、上月副委員長、伊沢幸雄、茨木靖、植田美恵子、大原賢二、  
桑田トシエ、田村典子、宮本正

(アイウエオ順敬称略、10名中9名出席)

【県】農山村政策局長、農山村政策局次長他

IV 委員会次第

1 開 会

2 開会の挨拶

3 議 事

(1) 農業農村整備事業の「環境との調和への配慮」について

(2) その他

4 閉会の挨拶

5 閉 会

<配付資料>

資料1 会議次第

資料2 配席図

資料3 環境配慮調書

資料4 段関地区の環境との調和への配慮取り組み

V 会議録(要旨)

1 開 会

2 開会の挨拶：農山村政策局長

3 議 事

(1) 農業農村整備事業の「環境との調和への配慮」について、県担当者より説明。

①経営体育成基盤整備事業(坂野2期)

【委員】

水路の底質への配慮がポイントと思う。特に、保全対象であるヤリタナゴが生きるためのイシ貝が生息できる底質を意識して、水路の保全を考えていただきたい。

【委員】

魚道の設置について地元の方の理解は得られているのか。

【県】

これから地元の方と協議をしながら進めて参りたい。

【委員】

魚など沢山の保全対象種があるようだが。

【県】

水路の連続性を確保するようにしたい。

**【委員】**

適当な移植場所があるか、移植後のモニタリングを行うことが大事だと思うので、この点を配慮していただきたい。

②広域営農団地農道整備事業（阿南丹生谷2期）

**【委員】**

総事業費と全体事業費の違いと工期はいつから9ヶ年なのか。かなりの予算を伴うが、県財政が厳しい中で実現する見通しがあるのか。

**【県】**

総事業費と全体事業費との違いは、全体計画分と今回の審議対象区間を表したものです。工期は来年度より9年間を予定している。県財政が厳しい中ですが創意工夫して順次進めてまいりたい。

**【委員】**

工期9ヶ年について1期、2期、3期とあるが、1期が例えば3年かけてとかで、9年かけて完了するということか。

**【県】**

今回の工事部分（2期）を9ヶ年で予定している。

**【委員】**

短い区間に対して9ヶ年もかかるのか。

**【県】**

トンネル工事等を予定しており事業費がかかるため、予算等を考えながら進めていきたい。

**【委員】**

配慮対象植物のアゼオトギリは、移植しただけでは駄目で草刈り等を行わなければならないが、地元の方の理解と協力を得て維持管理はできるのか。

**【県】**

後々、管理していただける方の所に移植をすることを考えている。地元の方々の意見を聞きながら検討していく。

**【委員】**

ウスギムヨウランの配慮はどのように考えているのか。

**【県】**

発見された場所がトンネル工事の真上であり、工事による影響は少ないと考えているが、春調査の結果後に専門家の意見を伺いながら進めていきたい。

**【委員】**

配慮対象になっているナガレホトケドジョウ、アカザは、谷川の水を連続して供給することが大事だと思うが。

**【県】**

水路の付け替えは一部であるため、影響は少ないと思う。

③ため池等整備事業（敷地池、新池）

【委員】

ため池に行くまでの道路が狭いが、迂回路等の対策はあるのか。

【県】

進入路は大型機械が入るための仮設道路を造るが、将来的な道路として残すかは、今後、協議することになる。工事の際には必ず迂回路は設ける。仮設計画は工事实施の際に詳細をつめる予定です。

【委員】

台風時に土砂等の被害があり苦慮したとの話を聞いたが、排水設備の対策はどうするのか。

【県】

工事の対策としては、被害が出ないように十分注意して考えられる災害対策を行っていきたい。

【委員】

整備工事は一年間に出来る件数が限られていると思うが、地元の方の意見等を挙げていただいて、少しでも早く採択していただけるようにしてほしい。

④その他

【委員】

現地調査を重点にして直接専門家の判断を仰ぐ調査にしてはどうか。

【委員】

間違いがないように標本は出来るだけ残すことになっている。完全な調査が理想だが、コストと事業対象の地域によってメリハリをつけるのも重要なことではないか。

【委員】

標本の中で希少種は2%～3%と聞いている。9年間のデータを蓄積していることから専門家の現地調査が効率的だと思うが。

【委員】

全種の標本を採取することになっているのか。

【委員】

時期的なものもあるので証拠を残しておきたい、現物を見て判断したいということで、全種採取をお願いしている。標本は県の財産としても残しておきたいということで、博物館で収蔵している。

【委員】

農業農村整備事業については、農家負担が伴うので、出来るだけ経費が節減できればと考えたしだいです。

【委員】

出来るだけ標本を残すということは望ましいが、全種採取するのが必要であるのかは、また検討していただきたい。

**【委員】**

徳島県の色々な取り組みについて、県民への周知・啓発することが大事ではないかと思うので、もっと広報活動の推進をお願いしたい。

**【委員】**

地域住民の意向、地元の合意を得た上で、より環境に配慮した事業を進めていただきたい。

(2) 段関地区の環境との調和への配慮取り組みについて、県担当者より説明。

**【委員】**

水質悪化への対策は、どう考えているのか。

**【県】**

樋門の開け閉め等により水の流れが良くなり水質の悪化防止ができるので、継続的な啓発に努めて行きたい。

**【委員】**

希少種の生息状況はどうなっているのか。

**【県】**

直近の調査では、捕獲できなかった。

**【委員】**

希少種の保全をどうするのか県全体で取り組んでいただきたい。随時、状況報告してほしい。

(3) その他

**【委員】**

今後の委員会の開催予定は、現地視察はないのか。

**【県】**

今年度は年明けにもう一度予定している。現地視察については実現できるように検討していきたい。

**【委員】**

効果が上がっている移植地区を確認したい。様式に誰が調査したのかを記入してはどうか。

**【委員】**

農業農村整備事業の検証することが大事。これまでの成果を情報公開していくことも必要でないか。

4 閉会の挨拶：農山村政策局次長

5 閉会